

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第244集

周防畑遺跡群 南上北原遺跡Ⅱ

長野県佐久市長土呂南上北原遺跡発掘調査報告書

2017. 3

佐久市教育委員会

例言

- 1 本書は株式会社田による宅地造成工事に伴う、周防畑遺跡群 南上北原遺跡Ⅱの発掘調査報告書である。
- 2 事業主体者 株式会社 田
- 3 調査主体者 佐久市教育委員会
- 4 遺跡名及び発掘調査所在地 周防畑遺跡群 南上北原遺跡Ⅱ（NKNⅡ）
佐久市長土呂字南上北原929
- 5 調査担当者 上原 学
- 6 本書の編集・執筆は上原が行った。
- 7 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡例

- 1 遺構の略称は次のとおりである。 H—竪穴住居址 P—ピット
- 2 遺構断面図の標高は遺構ごとに統一し、スケールバー上に値を示した。
- 3 遺構の計測値は以下のとおりである。



- 4 スクリーントーンによる表示は以下のとおりである。

遺構 焼土 粘土 床下 地山 遺物 黒色処理 軸範囲 須恵器断面

- 5 遺物の実測図番号と写真番号は対応する。
- 6 遺物実測図は1/4、遺物写真は1/3で掲載した。
- 7 本書中の方位マークは真北を示し、座標値は世界測地系に準拠している。
- 8 遺物観察表における（ ）は推定値を、[]は残存値を示す。
- 9 土層・土器色調は、「新版 標準土色帖」による。

目次

例言・凡例・目次

第Ⅰ章 発掘調査の経過	1
第1節 発掘調査の経緯	1
第2節 調査組織	1
第3節 調査日誌	1
第4節 遺構・遺物の概要	1
第Ⅱ章 遺構と遺物	3
H1号住居址	3
H2号住居址	4
写真図版	6
抄録・奥付	



南上北原遺跡Ⅱ位置図(1:50,000)

第 I 章 発掘調査の経過

第 1 節 発掘調査の経緯

南上北原遺跡Ⅱは、佐久市の長土呂地籍に所在し、周防畑遺跡群の中ほどに位置する。遺跡は、佐久地方北部に特徴的な田切りに挟まれた台地上に位置し、標高は720m前後を測る。

遺跡の周辺では、本遺跡の西北方向に展開する南下北原遺跡で3次にわたる調査が行われており、奈良・平安時代の集落跡が発見されている。重要な遺物として、一次調査において「刑部仁丸」と墨書された土師器碗が出土している。佐久地方で古代の人名が記された遺物は、銅及び石製の私印3点が認められるだけであり、極めて貴重な発見と言える。南下北原の南に位置する渋谷エ門地籍からは、貞観八年(866年)に定額寺となった「妙楽寺」に由来するであろう布目瓦が出土している。間接的ではあるが郡衙にも関連する事柄であり、佐久地方の古代史を考える上で、この地方の重要性を改めて認識させるものである。

今回、遺跡群内で株式会社田により宅地造成が計画されたため、遺跡の確認を目的とした試掘調査を実施した。その結果、奈良・平安時代の集落跡が確認された。保護協議を行い、道路建設箇所について記録保存を目的とした発掘調査を行うこととなった。なお、宅地部分において発見された遺構は埋土保存とした。

発掘調査は、表土除去後に4mグリッドを設置した。その後人力により遺構確認面の精査・遺構検出を行い、遺構掘削・写真撮影・実測図作成作業を順次行なった。

第 2 節 調査組織

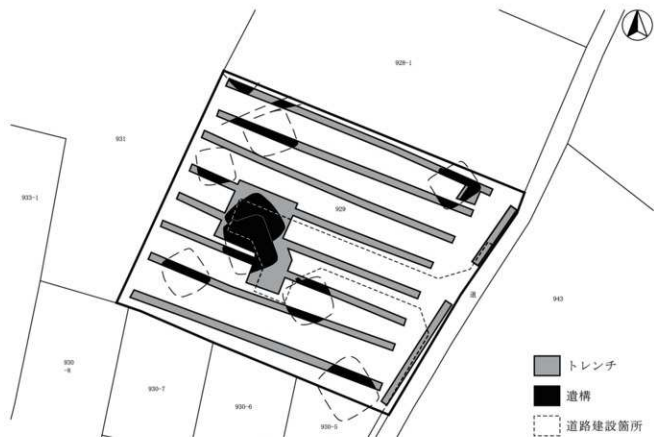
調査受託者	佐久市教育委員会	教育長	榑澤 晴樹
事務局	社会教育部長	萩原 幸一	
	文化振興課長	三石 建	
	企画幹	小林 登志郎	
	文化財調査係長	大塚 広樹	
	文化財調査係	小林 眞寿 富沢 一明 上原 学 神津 一明 生島 修平	
	臨時職員	森泉 かよ子	
	調査担当者	上原 学	
	調査員	赤羽根 篤 甘利 隆雄 小幡 弘子 中澤 登 羽毛田 利明 比田井 久美子 武者 幸彦 横尾 敏雄 渡辺 学 木内 修一 小林 敏雄 依田 好行	

第 3 節 調査日誌

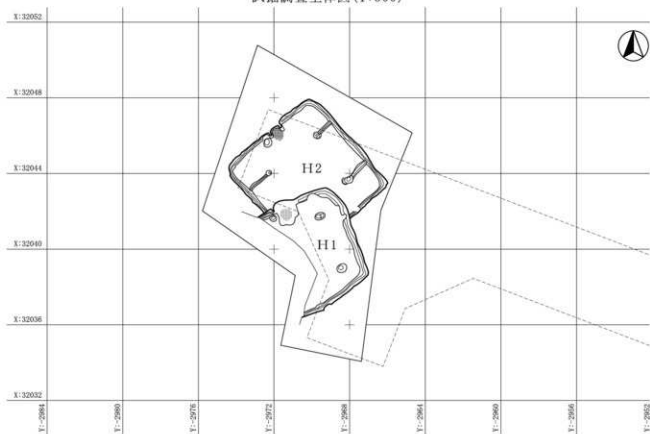
平成28年 8月 3日	遺構検出作業。住居址掘り下げ開始。調査区内にグリッド杭を打設。
8月 4日～	遺構掘り下げ、遺構写真撮影、遺構断面図・平面図作成を順次行う。
8月17日	調査区内を清掃し、全景写真撮影を行う。
8月18日	機材撤収作業。現場作業終了。
8月19日～	室内作業。遺物洗浄、注記、接合、実測等を順次行う。
平成29年 3月	報告書を刊行し、すべての作業を終了する。

第 4 節 遺構・遺物の概要

遺構	竅穴住居址	2軒(奈良・平安時代)
遺物	土師器(坏・甕)、須恵器(坏・甕・壺・蓋・砚)、石製品(檜・蔽石、支脚石)	



試掘調査全体図 (1:500)



遺構配置図 (1:200)

第II章 遺構と遺物

H 1 号住居址



H 1 号住居址 遺構・遺物実測図

規模は南北4.7、東西3.9m(調査規模)、深さは検出面から床面までの最深部で40cm、床面積は約18.3㎡(調査面積)を測る。形状は方形である。主軸はN-26°-Wである。H 2 号住居址と重複関係にあり、H 2 を切る。床面付近の深度まで、長芋栽培による攪乱が筋筋も認められる。埋土は黒褐色土を主体とする自然堆積土である。床面は全体的に硬質だが、硬質面は薄い。壁際には壁溝が巡らされている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。ピットは4個確認され、P 1・2 が主柱穴と考えられる。カマドは北壁の中央に構築されている。袖の一部と火床が残っていた。掘方は中央を浅く、周囲は

深く掘り下げた状態である。

遺物は土師器の坏・甕、須恵器の坏・甕・壺・蓋・円面硯が出土した。比較的形状が残る個体及び特徴のある個体を図化した。1・2は土師器坏の内面黒色処理された墨書土器で、底部ヘラケズリを施す。3は土師器甕の頸部から口縁部で、断面はやや丸みを持って反り返る。「く」の字から「コ」の字への過渡期と思われる。4～6は須恵器坏で、4・5は底部回転糸切り後、周囲のみヘラによるケズリまたはナデ状の調整が認められる。6は須恵器坏の底部で、全面ヘラケズリを施し「川」の字状の刻書が認められる。7は須恵器の高台付坏である。8は須恵器壺の底部で、底部を中心に自然軸の付着が認められる。9は須恵器甕の口縁から肩部にかけての破片である。10は須恵器壺の肩部である。11は須恵器蓋で、天井部ヘラケズリ後、皿状のつまみを貼り付けている。12は須恵器高坏の脚部と考えられる。13は須恵器の円面硯である。14は須恵器甕の破片で、表面に平行タキ痕が認められ、他の製品の一部が付着している。

時期は、須恵器にやや奈良時代後半の様相を示すものが含まれるが、土師器坏の形状が平安時代の様相を示すことから、8世紀後半から9世紀初頭としたい。

番号	器種	器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	坏	13.3	6.4	4.1	内面回転糸切り後、墨書あり 内面黒色処理 底部ヘラケズリ	80%	外周10W/4 に近い黄褐色地 外周7.5YR/4 に近い暗色地
2	土師器	坏	16.7	6.9	4.4	内面回転糸切り後、墨書あり 内面黒色処理 底部ヘラケズリ	90%	外周7.5YR/4 に近い暗色地
3	土師器	甕	-	-	-	口縁ヨコナデ 外周ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁～頸部破片	外周5YR/4 に近い暗色地
4	須恵器	坏	13.9	7.0	3.7	内面回転糸切り後、墨書あり 内面黒色処理 底部回転糸切り後、調整ヘラケズリ	50%	外周10W/4 に近い黄褐色地
5	須恵器	坏	-	6.1	[1.8]	内面回転糸切り後、墨書あり 内面黒色処理 底部回転糸切り後、調整ヘラケズリ	底部	外周10W/4 灰色地
6	須恵器	坏	-	-	-	内面回転糸切り後、墨書あり 内面黒色処理 底部ヘラケズリ 「川」の字状の刻書あり	底部破片	外周2.5Y2/1 灰白色地
7	須恵器	高台付坏	-	8.9	[1.7]	内面回転糸切り後、墨書あり 内面黒色処理 底部回転糸切り後、調整ヘラケズリ	底部	外周7.5YR/7 暗色地
8	須恵器	壺	-	6.9	[3.6]	内面回転糸切り後、墨書あり 内面黒色処理 全面ヘラケズリ	底部	外周10W/4 灰色地
9	須恵器	甕	-	-	-	外周縦目平行タキ 内面ナデ	口縁～肩部破片	外周7.5YR/4 灰色地
10	須恵器	壺	-	-	-	外周縦目平行タキ、自然軸付着 内面ナデ	肩部～体部破片	外周4Y 灰色地
11	須恵器	蓋	つまみ径3.4	15.7	4.0	内面回転糸切り後、墨書あり 内面黒色処理 底部ヘラケズリ	70%	外周2.5Y2/3 灰白色地
12	須恵器	高坏?	-	-	-	内面回転糸切り後、墨書あり 内面黒色処理 自然軸付着	脚部破片?	外周7.5YR/4 暗色地
13	須恵器	円面硯	最大径(9.8)	-	[2.7]	調整にかし・糸削、自然軸付着	硯面破片	外周10W/4 灰色地
14	須恵器	甕	-	-	-	外周平行タキ、糸削、他の製品付着 内面ヘラナデ	体部破片	外周10W/7 に近い黄褐色地
15	石製品	支脚石	厚8.9.7	幅10.8	高さ[26.4]	横糸削、縦面糸削	上下欠損	黄3.0/9 厚真の片角地

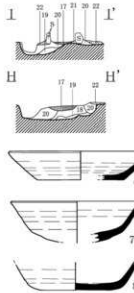
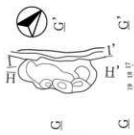
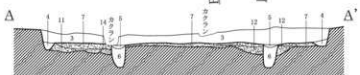
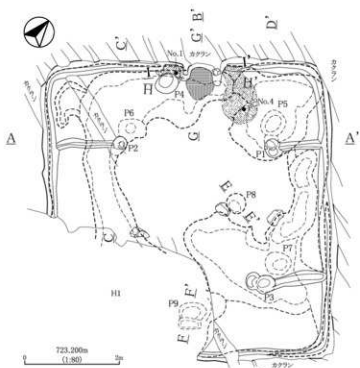
H 1 号住居址 遺物観察表

H 2 号住居址

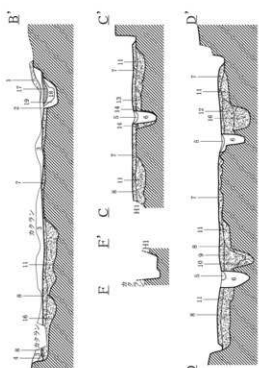
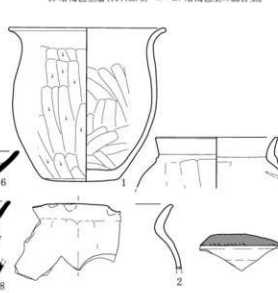
規模は南北6.15m(調査規模)、東西5.85m、深さは検出面から床面までの最深部で42cm、床面積は約28.2㎡(調査面積)を測る。主軸はN-40°-Wである。H 1 号住居址に切られ、床面付近の深度まで長草栽培による攪乱が、残筋も認められた。埋土は黒褐色土の自然堆積土である。床面はやや硬質だが、硬質面は薄い。壁際には壁溝が巡らされている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。ピットは床面上では4個認められ、P 1～3が主柱穴と思われる。カマドは北壁中央に構築されている。両袖の一部と火床周辺が残存していた。掘方は中央を浅く、周囲は深く掘り下げた状態である。主柱穴周辺にピットが存在した。建替えの可能性も考えられる。

遺物は土師器の坏・甕、須恵器の坏・甕・壺、石製品が出土した。比較的形状が残る個体を図化した。土師器坏は小破片である。1～4は土師器甕である。1はカマド左袖から出土した、やや小型の土師器甕で、ほぼ完全な形を残している。2・3は口縁部の破片である。4は頸部「く」の字状の武藏甕である。5～8は須恵器坏で、底部全体にヘラケズリを施している。9・10は須恵器壺である。9は「く」の字状に角度を持った肩部の破片で、表面に自然軸が付着している。10は口縁から丸みを持った肩部の破片で、表面に自然軸が付着している。11～13は須恵器甕の胴部破片で、表面に平行タキ痕が認められる。14は糠・穀石の欠損品である。

時期は、H 1 号住居址に切られ、須恵器坏の底部全面にヘラケズリを施すこと、武藏甕の口縁部が「く」の字状であることから、8世紀中頃としたい。

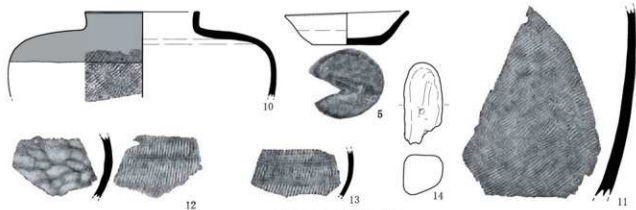


1. 黒褐色土層(7.5YR3/1) 粘土主体、焼土・炭化物含む。
2. 暗赤褐色土層(5YR3/2) 焼土・灰・粘土の混合土。
3. 黒褐色土層(10YR3/2) ローム・軽石・炭化物含む。
4. 暗褐色土層(10YR3/4) ロームやや多く、軽石含む。しまりなし。
5. 黒褐色土層(10YR2/2) ローム・軽石少量含む。
6. 暗褐色土層(10YR3/4) 暗褐色土ブロック・ローム多く含む。しまりなし。
7. 褐色土層(10YR4/4) ローム・軽石主体、硬質。
8. 暗褐色土層(10YR3/4) ローム・軽石・暗褐色土の混合土。硬質。
9. 暗褐色土層(10YR3/3) ローム・暗褐色土の混合土。



10. 灰黄褐色土層(10YR4/2) ぶいローム主体。しまりなし。
11. 暗褐色土層(10YR3/4) ローム・褐色土の混合土。軽石含む。
12. 褐色土層(10YR4/4) ぶいローム主体。軽石多く含む。しまりなし。
13. ぶい黄褐色土層(10YR5/3) ぶいローム主体。暗褐色土・軽石含む。
14. 暗褐色土層(10YR3/4) 暗褐色土とロームの混合土。
15. ぶい黄褐色土層(10YR4/3) ぶいローム主体。暗褐色土・ローム含む。
16. 黒褐色土層(10YR2/3) ローム・軽石含む。
17. 明赤褐色土層(2.5YR5/8) 焼土層。
18. 褐色土層(7.5YR4/3) 焼土・灰・軽石多く含む。
19. 褐色土層(7.5YR4/4) 灰・軽石・焼土含む。しまりなし。
20. 黒褐色土層(7.5YR2/2) 焼土・灰・軽石やや多く、粘土含む。
21. ぶい黄褐色土層(10YR5/4) ローム層。
22. 黒色土層(7.5YR2/1) 粘土・軽石・焼土含む。

H2号住居址 遺構・遺物実測図



H 2 号住居址 遺物実測図

番号	器種	器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	甕	16.5	7.9	16.2	口縁コナナダ 外底ヘラケズリ 内面ヘラナダ 内底ヘラケズリ	95%	外面3386/8 褐色地
2	土師器	甕	-	-	-	表面剥離 内底ニギキ波ナダ	口縁～肩部破片	外面7.3387/6 褐色地
3	土師器	甕	[12.8]	-	[5.3]	口縁コナナダ 外底ヘラケズリ 内面ヘラナダ	口縁～肩部破片	外面7.3385/3 にぶい褐色地
4	土師器	武蔵甕	22.8	(4.8)	29.7	口縁コナナダ、その下段口縁 外底ヘラケズリ 内底ナダ	55%	外面3386/4 にぶい赤褐色地
5	須恵器	坏	13.0	7.1	3.6	内外面コナナダ 底部ヘラケズリ	75%	外面1093/1 灰色地
6	須恵器	坏	(15.0)	(9.0)	3.0	内外面コナナダ 底部ヘラケズリ	25%	外面1092/1 灰色地
7	須恵器	坏	(14.4)	(7.0)	3.4	内外面コナナダ 底部ヘラケズリ、中々丸底気味	口縁～底部破片	外面3392/2 灰オリーブ色
8	須恵器	坏	-	(7.5)	[2.9]	内外面コナナダ 底部ヘラケズリ	底部破片	外面337/1 灰白色地
9	須恵器	蓋	-	-	-	内外面コナナダ 表面自然釉付着	肩部破片	外面342/0 灰色地
10	須恵器	短頸壺	(12.0)	-	[9.0]	肩線周辺に自然釉付着 肩線表面黒目平行タタキ 内底ナダ	口縁～胴上部破片	外面1093/1 褐色地
11	須恵器	甕	-	-	-	外面横目平行タタキ 内面ヘラナダ	破片	外面2.577/2 灰褐色
12	須恵器	甕	-	-	-	外面平行タタキ 内面ヘラナダ	破片	外面362/0 灰色
13	須恵器	甕	-	-	-	外面平行タタキ 内面ヘラナダ 12と同一体か?	破片	外面1096/1 褐色地
14	石製品	撥・敲石	長さ(8.5)	幅4.1	高さ4.2	一断面縦 表面部分的に厚みか、先端部削行面	-	重さ279g

H 2 号住居址 遺物観察表



南上北原遺跡Ⅱ全景（南から）



南上北原遺跡Ⅱ全景（北から）



H1号住居址全景（南東から）



H1号住居址堀方全景（南東から）



H1号住居址カマド（南東から）



H1号住居址カマド堀方（南東から）



H2号住居址全景（南から）



H2号住居址堀方全景（南から）



H2号住居址カマド（南東から）



H 2 号住居址カマド堀方 (南から)



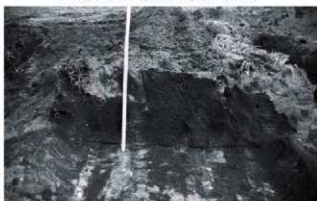
H 2 号住居址遺物出土状況 (No.10)



H 2 号住居址遺物出土状況 (No. 1)



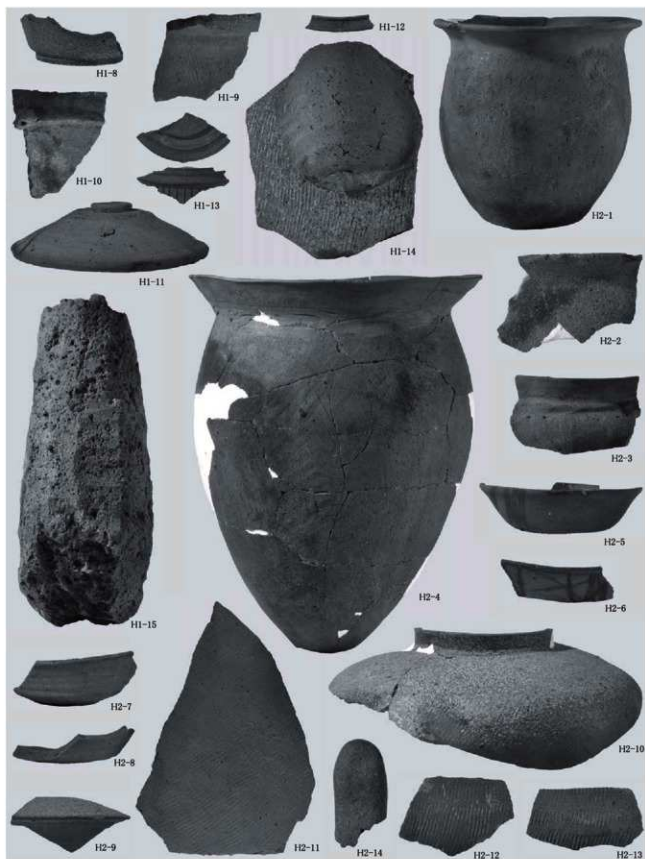
調査風景 (西から)



基本層序



H 1 号住居址出土遺物



H 1 · 2号住居址出土遺物

ふりがな	みなみかみきたはらいせきに							
書名	南上北原遺跡II							
副書名	—							
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第244集							
編著者名	上原 学							
編集機関	佐久市教育委員会文化振興課							
所在地	長野県佐久市志賀5953 ℡ 0267-68-7321 FAX 0267-68-7323							
発行年月日	平成29年(2017) 3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
みなみかみきた はらいせきに	さくし ながとろあざ みなみかみ きたはら	20217	7	36° 17' 20"	138° 28' 01"	20160803 ～ 20160818	80㎡	宅地造成
南上北原遺跡II	佐久市 長土呂字 南上北原929							
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
南上北原遺跡II	集落	奈良・平安	竪穴住居址2軒		土器(土師器・須恵器) 石製品	—		
要約	遺跡は、田切り地形の台地上に展開する。今回、宅地造成に伴う試掘調査の結果、9軒の竪穴住居址が発見され、道路建設箇所直下の住居址2軒を調査した。円面硯といった特徴的な遺物も発見されている。							

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第244集

南上北原遺跡II

平成29年(2017) 3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市中込3056

社会教育部 文化振興課文化財事務所

〒385-0006 長野県佐久市志賀5953

℡0267-68-7321

印刷所 キクハラインク 株式会社